



牡丹の図綴織壁掛
(財)西陣織物館 昭和19年(1944)



錦秋の図綴織壁掛
(財)西陣織物館 昭和19年(1944)



萬寿山図綴織
山鹿清華 昭和中期(1946-1965)



冊子に菊桐鳳凰龍文様綴織袋帯
昭和15・16年頃(1940-1941)

綴織の魅力

つづれ おり

西陣織会館 西陣織史料室 | 所蔵品展 |

数々の古代文明で多様に発展し
西陣に花開いた織の絵画、綴織
工芸創作美の逸品と海外の綴織も
あわせて紹介します

平成30年10月1日(月)~12月24日(月・祝) 入場無料

西陣織会館3階 西陣織史料室 午前10時~午後5時 [10月1日(月)~31日(水)は午後6時まで]

京都市上京区堀川今出川南入 Tel.(075)432-6130

[主催] 一般財団法人西陣織物館

NISHIJIN Textile Museum

西陣織会館 西陣織史料室 | 所蔵品展 |

つづれ おり

綴織の魅力

綴織つづれおりの歴史は古く数千年前と言われ、紀元前15世紀頃の綴織の麻織物が見つかつたエジプトが起源とされています。やがてギリシャやローマ帝国、シルクロードから中国を経てわが国には飛鳥時代に伝わりました。また、アンデス地方でも紀元前13世紀頃に綴織が行われており、西欧では中世以降にゴブラン織として発展するなど、綴織は世界各地で製織されてきました。

江戸時代の中頃、中国から再び精巧な綴織が多量に舶載され、西陣でも綴織が再興して織りはじめられました。

爪先を使って緯糸で経糸を包み込むようにして細かく織り詰めていく綴織は、下絵をもとに作品のイメージを膨らませながら織り進めていきます。平織でありながら、絵画のように微妙な色の変化や細やかな模様まで自在に表現できる技法であり、織り手の技術と芸術的センスが作品に織り込まれます。悠久の歴史を背景に美術工芸品としての地位まで高められ、見る人の心を惹きつけます。

祭りの幕や緞帳といった大作から袱紗などの小さなものまで、多彩にこの技術が用いられています。今回の展示では、壁掛、帯や袱紗などの魅力豊かな西陣織の綴織作品と海外の綴織もあわせて紹介します。



(左)嵐山紅葉の図綴織壁掛・(右)金閣寺の図綴織壁掛
佐々木多次郎・佐々木正進 原画:三輪晃勢
昭和後期(1966-1988)



法隆寺壁画観音菩薩像綴織
佐々木多次郎 昭和45年(1970)



綴織組袱紗
(大)日の出の図
(中)若松の図
(小)巖の図 原画:竹内梧風 昭和前期(1926-1944)



吉祥文尽し図朝鮮毛綴織敷物
18世紀-19世紀(1701-1900)

常設展示エリアで、近代化の経緯と国産第1号木製ジャカード機(明治10年・1877)などを紹介しています。